

令和4年度第5回スポーツ団体組織統合検討会議 顛末

日 時：令和4年12月19日 18時00分～20時00分

場 所：駅前交流プラザよろーな会議室4

出席者：別紙のとおり

1.前回までの内容振り返り

2.検討内容

●新組織における活動方針と新組織における財源確保に関する具体的な事業（現状の確認）

将来的には指定管理制度にて収益を。スノーシューリズム、ヘルスケアシューリズム。宿泊と連携して旅行業など。各競技団体が新組織に加盟するメリットとして大会の事務局のなど企画・運営も大きくは収入に繋がるのではないか。

●収益について

・風連スポーツ協会は一般社団法人で20年目を迎える。最初のスタートは日本スポーツ振興協会のtoto助成金。5年間の助成で平成15年にスタート。totoの財政規模が厳しくなり5年から3年計画に変更になり助成金に頼らないでおこう、ということで仕切り直した経緯がある。例えば、過去に高齢者の体力づくり等の補助金事業を試みたこともあったが、現在は名寄市から65万（委託料：スポーツ教室開催）を基本にしながら、会員からの会費やスポーツ教室参加者からの参加料。定期型・不定期型・単発型・連続型の参加料収入が主である。その他は、シーズン終了でスキー場を閉める際、来場者へ提供する出店（ココア・焼き鳥・豚汁など飲食物）を行なっている。自衛隊にも協力いただき移動式キッチンカー（魅せるお店）も実施した経緯がある。最も収益率が高かったのはかき氷とポップコーン。

・総合型スポーツクラブは全国的に伝統・文化も実施・発信。（スポーツだけではなく陶芸など）今年度、登録認定者制度が開始。国の方の考えが変化している。合わせて動きを変えていく。少ない人数で出来る事をできる範囲で実施中。

●スポーツ教室の参加料について

・室内ではスポーツ施設の格技室などを利用した種目。エアロビクス・ズンバ・ヨガ。長期スポーツ教室は年間1,500円の登録費。2回の回数券も付与。1回の単価は500円程度。使用し切った後は回数券も3種類（10回券・5回券・3回券）作成している。月～金曜にかけて、複数（ズンバ・ヨガ・水泳）のスポーツを実施中。会員数はコロナにより減少中だが約100人。参加料収入として平均100万円ほど。（今年は70万円ほど）指導者は教員、種目により地元の方やインストラクター。短期のスポーツ教室は幼児を対象。水泳や運動教室を5回程度。参加料は3000円程度。参加料収入で外部指導者の謝金をまかなっている状況。若干の収益が出る程度。指導者への謝礼は1～2時間で3000円。遠方からくる方には交通費（2,000円）もお支払い。指導者が広報・宣伝も行い、参加者が多く集まれば謝礼も少し上がるような仕組み。

・大倉山のジャンプ場は基本的に場所貸しビジネスとして成立。観光業を盛り上げるための工夫をこらした施策。札幌ホテルから大倉山まで送迎バスを出す、花火など。

有償の場合：30万

リフト料金：市民：500円、観光客も500円を→1000円に改訂。観光客は価格に対しては厳しくない。（来場者割合として地元の方は20%程度）

・今シーズンはバックカントリーツアーを実施。1月に3本を計画。ピヤシリ山にて雪上車で人を運搬し山頂から滑走するツアー。視察して回った感想として、振興講者で付加価値をつけることを想定。イントラクターをつけ、3万~5万円で計画していたが、イントラクター本人へ直接3万~5万円が入るよう参加者から費用を頂くスキームがより良いのではないかという感想。この事業の申し込み開始後に1週間で50名程度の申し込み者（最終的には80名）を確認。一定の需要を確認することができた。

・ガイドさん側はサラリー制度ではないほうがよい。誰でも来てしまうと外国人なども入りルールが統一されないため、ガイドを立てその一部の売上から収益化を狙うなども計画していかなければならない。

*雪上車とは：ハイエースにキャタピラーをつけて

スノーモービルとの棲み分けやルール化必要か。名寄市ではない土地であることの認識。

●収益化の仕組みについて

・スポーツコミッション、スポーツ団体、名寄市全体が儲かるようにし、スポーツコミッションも恩恵を受けることが理想的な仕組み。町が潤うと協力する企業が現れ、競技団体も参画し、中国人のインバウンド層や外国人の方を指導者資格付けするなどができるのではないか。

さまざまなアウトドアツーリズムがあるが、地元の人と外の人で料金設定を変える。外で収益を作っていく。中は地域の皆さんの余暇活動。価格設定を行うかは別。2~3回で新品を購入できる価格設定にしている。若い世代を活用できればシーズンにより可能性はあるのではないか、地域人材を活かせないか。農業界にも人材が眠っているのではないか。もしくはスポーツ人材を農業人材へ送り込めないか。

・スポーツ人材を人手不足に持ってくる。農業人材や福祉人材へ持ってくる。

海外ではボディービルダーが福祉業界と連携している事例がある。ボディービルダーの練習が勤務中に設けられている。ジムなど施設活用ができること。地域課題を逆手に捉えて解決できること。

スリープ人材の有効活用。セカンドキャリアや自分の仕事を続けて競技活動も続けたい人をターゲットに名寄に呼び込めないかどうか。夏は農業や地域のこと、冬はウィンタースポーツ指導者、など。

・農業が人材不足になるのは収穫時期。可能性としてはセカンドキャリアや自分の仕事を続けて競技活動も続けたい人の環境づくりができれば。

・ゴルフ場のキャディーの高齢化。例えばゴルフ場の人材不足を解消するため、ゴルフ場の施設を経営し夏はゴルフ場で勤務しクローズ後の冬はウィンタースポーツ指導者という連携。夏はゴルフ冬はスキーを行う。ゴルフとスキーはクラブハウスなどを拠点とした親和性があるのではないか。名寄市小学校の子どもは少し離れた白樺ゴルフ場へ行っている。ゴルフ業界は規制が外れて、アマチュア選手・子どもにもスポンサーが付けられるようになる。

・地域で財源を稼ぐには。組織として収益を得ていくためには。コミッションという組織で動いていく。昔、為末さんがアスリートの経営するレストランという事業を行った。ふるさと納税の事務手続き受託など、スポーツ以外の分野の可能性も情報収集に努める。体育協会からの素案について。人事的な配置や組織として、あれば良いと考える組織についての意見交換を行いたい

●部活動、ジュニア事業の統合について

・部活動の送迎用の運転手の人材について。大型2種免許、運転手人材不足も考え、一般的な大型バスの外注費用は1日10万円。このテーマは部活動の地位移行化においても取り上げられている。連携して解決できると良いのではないか。

・関係者が大型2種免許を持っていることは大きい。トランポリン競技力向上優先のためにバスを持ち送迎ができることは強みである。具体例、国見高校サッカー部顧問は教員自らが大型2種免許を持ちチームを強くした背景あり。時代背景もあり、今後は1人の先生に依存するのではなく、地域の中で仕組みの中で対応して動かすこと。タクシー業界などとも連携できないか。タクシーが子どもの送迎中心になり使用しにくい時間帯もある。

・協議会としてまとまって実施する事業は、①スポーツ（体力）テスト ②救急救命講習 ③指導者講習など実施してきている。今年度は②③は実施できていない。①～③に市の補助金を使用している。

・形にはとらわれず、ジュニア育成部門を作るべき。札幌において、ジュニア育成・発掘を実施している。指導力向上のオンライン講習会を直近も予定している。

・コミッションは窓口が広い、学校解放が広がることで民間事業社のスポーツ団体の受け皿が増えている。統括する団体が必要ではないか。このような機能を持った組織体に変わろうとしている。スポーツを実施していない団体でも良いかもしれない。ジュニアの団体も支える仕組みを作らなければいけないかも。

・一輪車やダンス競技の可能性について。格技室は土足問題で使用しづらい。鏡は必要ではないか。①スポーツ協会だけではなく②生涯学習に位置付けることで、何らか位置付けることで登録団体として認める①②の2重登録を行う。鏡は体育施設より文化施設の方が多く設置されているか。キャスターが付きの鏡など、ダンスは大人の習い事としての需要もあり。大学のサークル活動はあるが、スポーツ施設はあまり使用されていない。

●市民周知について

・名寄市議会、市民の方との意見交換会として実施した際、出席者の市民から当会議の公開情報としての問い合わせが入った。興味関心がある方から、意見や発信する場がないという認識を持っている人がいる。この場だけで意思決定し統合することを危惧している。より情報を広げ市民の声も反映できないのかと考えている。学校のクラブ活動にも影響がある。Nスポと中学・高校クラブ活動との関連性が見えないという声がある。R7年までには土日の部活動以降を一部始めている。今は保護者が個人送迎。今後送迎サービスが導入を検討。今後は拠点を作るのかどうかを検討中。R8年～は地域のスポーツ関係団体に学校部活動を任せることになる見込み。中体連とNスポとの関係性を住民も気にされているという肌感覚でいる。

・現在は中体連の動きもバラバラ。この3年間でスポーツ庁方針を決めるので、R8年からは平日も実施する予定、名寄市では中体連とNスポの連携がどうなっているのか。市長の発言からもNスポの方向性を決める話を聞いている。

- ・名寄体育協会として、どのタイミングで競技団体への共有をお考えなのか。
 - 役員の中で理事会にはかることや、一定の方向性が出た際に共有していくことを計画している。
 - 議事録も残しているため、それぞれの参加者にそれぞれの立場から都度共有して頂きたい。

・事業、予算、人材、組織などの順序で話を進めていくにあたり、年度内に今後話したい。来月、1月31日夕方に日程調整中。現在までの話の経緯を代表者会議として議論する予定。どう市民から捉えられているかという議題を設けて、代表者会議にて話し合いをする。新年度に向けて市の立場として議論する。それぞれの立場で当会議の内容を共有する予定。その中で公共性の高い議論をどのように進めるかも議題として取り上げる予定。

以上